

議会だより

ワットサム

※「ワットサム」とはアイヌ語でワット（にれの木）・サム（傍）という意味で、わっさむの由来です。

第82号 2016年2月5日

p10
より良いまちづくりを
〜決算審査特別委員会Q&A〜

写真
中和自治会 松本家
開村百周年を記念して大家族

- p3 12月定例会 こんなことが決まりました
- p5 町政を問う。一般質問に4議員が登壇
- p12 Topic議会
- p13 行政報告
- p14 町民インタビュー聞かせて

新春を迎えて

和寒町議会議員 塚崎 正

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

町民の皆様におかれましては、平成二十八年の新春を、ご家族お揃いでお迎えできましたことに、心からお慶びを申し上げます。

また、日頃から議員活動にご理解とご協力をいただき、議員一同、深く感謝を致しております。

さて、平成二十七年を振り返りますと、わつさむ開村百周年という節目の年を迎え、4月1日の「開村記念日」のつどいを皮切りに、多くの事業が百周年の冠を付けた中で開催されたところであります。

4月には統一地方選挙があり、当議会も3名の新人議員が加わり、新たな体制でこれからの4年間の活動を展開する運びとなりました。

基幹産業である農業は、異常気象の中、農業者及び関係者の皆様の多

大なるご尽力が実を結び、豊穡の秋を迎えることができました。しかしながら、先のTTP交渉については、大筋合意を受け、農業及び地域経済への影響を危惧するところであります。

商工業におきましては、昨年に引き続き、「わつさむ活活（いきいき）商品券が発行され、町民の皆様の生活安全と、地元消費による地域経済の活性化を期待しております。

また、マイホーム応援事業、なごやかサロンの支援、保育料の軽減など、様々な施策が行われており、今後においても住民福祉の更なる向上を願うものであります。

社会がめまぐるしく変化化する中で、少子高齢化や福祉、教育、産業の振興、生活環境整備の推進などに議員一丸となって努めてまいります。

最後になりましたが、町民の皆様方の益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新春のご挨拶と致します。

本年もよろしくお願い申し上げます



総務福祉常任委員会

議長 塚崎 正
副議長 佐々木 広行

産業教育常任委員会

委員長 中原 浩一
副委員長 下 美恵
委員 酒向 勤
委員 伊藤 弘明
委員 谷口 裕二
委員 窪田 裕二

議会運営委員会

委員長 石田 利美
副委員長 伊藤 明
委員 佐々木 広行
委員 金谷 裕二
委員 谷口 裕二
委員 窪田 裕二

議会広報委員会

委員長 酒向 勤
副委員長 金谷 幸
委員 佐々木 一行
委員 中 利美
委員 石田 裕二

議会選出監査委員

委員長 下 美恵
副委員長 谷口 弘
委員 酒向 勤
委員 伊藤 弘明
委員 窪田 裕二
委員 金谷 幸

29人乗り バス購入



【一般会計補正予算】
（全員賛成可決）
交通対策事業費では、福原線・下校便で使用する29人乗りバスの購入費を増額補正。
個人番号カード交付用機器購入では交付事務用パソコン及び印字用機器の購入による増額補正。
旧塩狩温泉関連施設解体撤去工事請負費では、地下タンクの撤去が追加で必要となったことによる増額補正などを可決しました。

補正予算

各会計の主な増減は下記の表のとおりです。

12月定例会議会のあらまし

12月定例会議会（第4回定例会）は、平成27年12月17日から18日にかけて開催されました。
17日は、町長の行政報告のあと、一般質問を行い4人の議員が登壇し、行政に対する質問をしました。

質疑抜粋

Q バスはいくつ頃納車になるのか。

A 受注生産となっており、納入には6ヶ月ほど期間を要することから、7月頃の納入になる予定である。

Q 中山間地域等直接支払交付金で、減額補正となっているが、なぜか。

A 本年から第4期分で新たに施策が始まっており、水田として認められない等の部分の面積が対象から外れたため、減額となった。

一般会計の主な補正内容

（※1万円未満切捨て表記）

会計別	補正前の額	補正額	補正後の額
一般会計	44億160万円	1846万円	43億8313万円
主な増減内容 （※抜粋掲載のため、各事業補正額と補正額の合計は合致しません。）	○バス購入		418万円
	○個人番号カード交付用機器購入		148万円
	○中山間地域等直接支払交付金	△ 154万円	
	○道営土地改良事業地元負担金	△ 2813万円	
	○旧塩狩温泉関連施設解体撤去工事		200万円
	○イベント備品購入		100万円
	○土別地方消防事務組合負担金		和寒支署
			△ 119万円

【公共下水道事業特別会計補正予算】

（全員賛成可決）

下水道事業債借入金の一部を過疎対策事業債で借り入れる補正を可決しました。（増減なし）

【介護保険特別会計補正予算】

（全員賛成可決）

保険事業勘定において、居宅介護サービス給付費の減額と特定入所者介護サービス費の増額補正をし、これに伴い、国の介護給付費負担金割合が再算定されたことから、道・国の負担金をそれぞれ同額増減する補正を可決しました。（増減なし）

18日は条例制定・改正や補正予算の議案審議の他、選挙管理委員の選挙や平成26年度決算の審査報告なども行われました。
また、意見書1本を可決し、閉会しました。
なお、今定例会の傍聴者は延14名でした。

選挙

【選挙管理委員の選挙】

選挙管理委員と同補充員の選挙は議長の名指推薦で行われ、次の方々が当選人となりました。

選挙管理委員



山住 浩 さん



森本 岸子 さん



茶円 宥正 さん



坂本 廣志 さん

【選挙管理委員補充員】

一位 田中 利英さん
二位 高岡 純孝さん
三位 川江 峰さん
四位 佐藤美佐子さん
(補充員の順位は、選挙管理委員に欠員が生じたときに繰り上がる順位です)

条例など

【個人番号の利用に関する条例の制定について】

(全員賛成可決)

町の事務において、マイナンバーを利用する際の範囲を定めるなど、必要な規定を設けました。

【税条例等の一部改正について】

(全員賛成可決)

マイナンバー制度の施行に伴い、各税目でのマイナンバーの使用を定めた地方税法施行規則が公布されたことによる改正を可決しました。

【介護保険条例の一部改正について】

(全員賛成可決)

マイナンバー制度の施行に伴い、保険料の徴収猶予及び減免の申請にマイナンバーの記載事項を追加することとする改正を可決しました。

審査報告

佐々木広行決算審査特別委員長から委員会審査の報告がなされ、採決の結果、一般会計、5特別会計、病院事業会計がそれぞれ賛成多数で認定されました。

決算審査特別委員会の内容は、10～12ページの「決算審査Q&A」をご覧ください。

みんなの声を国政に

公益に関わる次の1件について、議員から意見書案が提出されました。
第4回定例会において審議の結果可決され、関係行政省庁に提出されました。

TPP合意内容の徹底した情報公開と検証を求める意見書

提出者 中原浩一 採決結果 可決(全員賛成)
提出先 衆議院議長 参議院議長 内閣総理大臣 外務大臣 TPP担当大臣 農林水産大臣
(要旨)

TPP交渉大筋合意に対し下記の事項を要請する。

1. 政府においては、国会における承認手続きに入る前に交渉過程を含めた徹底した情報公開を行い、TPP合意内容の全容と影響などについて国民各層に対する説明責任を果たすこと。
2. 国会においては、衆参両院の農林水産委員会における国会決議との整合性について真摯に徹底した検証を行うこと。その結果、国会決議に違反すると判断された場合は、速やかにTPP合意を撤回すること。
3. 食料自給率の向上や多面的機能の発揮など我が国の農業・農村が将来にわたり持続可能となる国境措置を担保するとともに、農畜産物の再生産が補償される経営所得安定政策などを確立すること。

町政を 問う。

一般質問

和寒町では1人につき60分の制限時間が設けられ、質問の回数は無制限で行われます。

一般質問とは、議員が町の行財政全般にわたって、執行機関（町長・教育長）に疑問点をだし、所信の表明を求めるものです。

質問議員	質 問 事 項	ページ数
谷口 勝弘 議員	①地域包括ケアシステムの今後の進展は ②和寒町の地方版総合戦略は	6 ページ
金谷 浩幸 議員	①南丘森林公園の利用者増を目指すには ②農地の冠水、表土流出対策は	7 ページ
下條 美恵 議員	①和寒町の未来の姿は	8 ページ
石田 利美 議員	①和寒町のロゴマークで特産品の支援を ②和寒町のアライグマ・鹿等の鳥獣被害は	9 ページ

問 地域包括ケアシステムの今後の進展は **答 各分野の総合的な連携の仕組みづくりを検討**

問 和寒町の地方版総合戦略は **答 4つの基本目標を設けて施策を講じていく**



谷口勝弘議員

住民参加型会議での意見をどのようにして活かすのか

昨年度は、「和寒町の地域を支えるための意見交換会」そして平成25年には「町内介護事業者等意見交換会」を実施した。

町民からの集まった多くの意見をどのようにして和寒町の地域包括ケアシステムに生かしていくのか。

奥山町長

平成26年度まで第5期介護事業計画では地域包括ケアシステム構築の準備期間として、それぞれの意見交換会を開催し、地域課題や住民の方々のニーズなどについて意見をいただいた。

第6期介護保険事業計画の1年目である今年度は、つどいの場・サロンの後方支援や、地域ケア会議において

それぞれの地域の課題を検討している。

今後は、生活支援コーナー・デイネーターと関係団体や、福祉事業者などで構成する協議体を設置し、生活支援、介護予防に向けて体制整備を進め、医療・介護・住まいについても連携の仕組みづくりを検討していきたい。

○再質問

「和寒町の地域を支えるための意見交換会」の中でも、地域包括ケアシステムの中心に、温泉を併設するような高齢者向け住宅をおくという意見も出てきていた。

奥山町長

できる限り早期に35歳の年齢制限のない単身者向け住宅、及び高

齢者向け住宅を、2つに分けて建設する手段を議論している。

これから高齢者の人口が徐々に緩やかに減っていく、特別養護老人ホーム芳生苑の建て替えなどの方向性も含めて、総合的に勘案しなくてはならない。

中間施設についても、福祉付きの住宅がどの程度必要なのか、違う分野で総合的に検討する必要があることは認識している。



和寒町の地方版総合戦略は

人口ビジョンを見据える上で、まち・ひと・しごと創生総合戦略で

最初の5年間は重要であるが、どのような視点で進めていくのか。

奥山町長

人口ビジョンについては、2060年の人口を、1600人以上確保することを目標にしている。

総合戦略については、人口減少を抑制するため、一つ目に産業の振興により安定した雇用と活気を創る、二つ目に地域の魅力を発信し、交流・滞在・移住の流れを創る、三つ目に結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境を創る、四つ目に安全で安心して住み続けられる町を創る、この4項目の基本目標を設け施策を講じていく。

○再質問

移住者の受け入れに関しては、「まちと町」特に都会との交流事業

を行って、将来的に町単位で和寒を好きになつてくれるような事業が必要と思うが。

奥山町長

和寒町を元気にしていきたい、住民を増やしていきたいという思いは誰もが同じだと思う。

いきなり定住というよりも、現在進めている着地型観光などの交流事業を通じて、和寒町に来ていただいてもっと知っていただく環境を整えていく必要がある。

この5年間の総合戦略は全ての方面から総合的に攻めていく。



▲着地型観光モニターツアーの様子

金谷浩幸議員



問 南丘森林公園の利用者増を目指すには 答 現在の禁止事項を再検討

問 農地の冠水、表土流出対策は 答 各関係機関と連携し、必要な情報提供に努めていく

多様なニーズに
応えては

利用者が増えない状況が続いている南丘森林公園だが今後、もっと多くの人に利用してもらえる場所にするために、利用者の希望を多く取り入れることによって、利用状況の改善につながると考えるが、町長の考えは。

奥山町長

この公園は、平成6年7月にオープンし、平成10年には1万8千人を超える利用者があったが、近年は5、6千人の利用者数にとどまっている。

本年5月に公園の塩狩側に位置する、多目的ゾーンを利用してドッグレースを開催したいとの申請があり、キャンプ場の区域には入らない、ごみは持ち帰るなど利用の際の制限を設けて、試験的に開

催をした。

なお、ペットの持ち込みを許可する場合には、動物が苦手な方への配慮や動物の糞の後始末の問題なども考慮し、利用エリアを設けるなど工夫も必要と考えている。

今後、利用者の方々の意見や、要望なども踏まえながら、南丘森林公園の利用増に向けて取り組んでいく。

○再質問

現在地を示す看板設置は。

広富副町長

観光協会等とも連携しながら、鳥瞰図等の設置をしているが、自分の位置が分かるものと、所々に市街地への案内板も組み合わせながら設置する必要があると思う。



▲南丘森林公園入り口

災害対応力の実効性を確保するには

近年、豪雨による冠水、表土の流出等に見舞われ、農業者はその対策に苦心している状態である。

田んぼダムが冠水対策で有効とされており、農家も理解しているとは思いますが、個々がいつ、どのタイミングで実行するか、行動を促す組織等が必要と考える。

また、畑の表土流出については、土は農家にとっていわば血液、土壌改良材を投入し堆肥を散布して作り上げた土が流される、これは大変な痛手であり、次の年の農作物に影響

を及ぼすことになる。

傾斜地の多い他町村等の取り組みなどを参考に、情報提供することが必要と考えるが、町長の考えは。

奥山町長

町としては被害を最小限に食い止めるため、不良排水路の改修や河川改修などに取り組んでいるほか、冠水対策を田んぼダムに取り組むためには、実行を促す組織の必要性も含め、多くの課題があり、今後環境保全会と協議していく。

また、表土の流出の防止策として、客土や心土破砕、有機質資材の散布など、効果があるとされており、継続的に実施する必要があるのである。

費用の面などの課題もあるが、今後の対策を研究しながら、必要な情報提供に努めていく。

○再質問

樋門管理人に対する協力要請は。

奥山町長

樋門の管理をされている方の情報は非常に大事、役場行政側としてできることを支援していく。

○再質問

畑の表土の流出防止について、農家が自己努力の中でできるような、対策情報を。

奥山町長

町内表土の流出については、昨年の夏に発生し、その苦勞も身近な話として聞いています。

道内、全国も含めて、同じような苦勞をされている農家はたくさんいると思う。有効に使えるような情報をできるだけ集めて、提供できるように努めていく。



下條美恵議員

問 和寒町の未来の姿は 答 町民と協力し創り上げていく

和寒町の未来は

町長に就任し、多くの町民の声に耳を傾け3年目の予算を策定されていると思うが、和寒町の未来をどのように想像されているのか。

奥山町長

ふるさと和寒をもっと元気にしていきたいとの思いから立直し、3つのまちづくり重点目標を掲げてきた。

今年度は、マイホーム応援事業・保育料の軽減・農業経営力支援事業・特産品振興事業・給食費負担軽減など人口減少対策も念頭に置きながら当初予算を計上した。

また道北の玄関口、塩狩峠周辺を観光エリアの一つとして整備していくため、旧塩狩温泉跡地や夫婦岩周辺の用地購入をした。

まちづくりは、町民の皆さんと協力しあいながら創り上げていくべきと考えており、子どもたちや町民の皆さんが笑顔になれるよう、全力で取り組んでいく。

○再質問

まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、人口減少対策として、最も力を入れたところは。

辻総務課長

基本目標①産業の振興と雇用、②地域の魅力を発信して移住定住を図る、③結婚・出産・子育てに希望を持てる環境創り、④安全で安心して住み続けられるまちづくりの4つを掲げており、その一つ一つの、様々な事業を組み込んでいる。これらが相互に絡みあって、人口減少に歯止めをかけていく。

○再質問

人口減少の原因でもある出生率・未婚率はどの様に分析されたのか。

辻総務課長

未婚率は全国的に見ても、見劣りするものではない。

出生率も幾分高い。今後、更には上げていくため、子どもを産み育てて、健やかに育っていく事業を拡大し、新たに若い方々の出会いの場をつくっていく。

○再質問

未婚の要因として低収入が考えられる。

和寒町の平均年収は平成26年総務省発表によると全国1741市町村中1288位、全道179市町村中150位と低い。地方公務員の年収も全道155位となっている。

指定管理者、委託業者などの人件費を上げていく考えは。

また、民間企業も巻き込み環境を整えていくことは。

奥山町長

法人株を有して職員を雇用しているところのほとんどは、役場の給与表をベースに、8割という形でしている。

つまり、役場の給与が上がらないと民間も上がらない。

昭和30年代に町が経営破綻したが、先輩方が努力し、今を築き上げてきた。

先輩方に敬意を表し、我々もしっかりやっていかなければならない。

色んな角度から検証する必要はあると思うが、特に保健福祉関係はやっていく必要があると思う。

○再質問

A級グルメに力を入れてまちをPRしていくことは。

奥山町長

大切な提案だとは受け止めている。

ただ、行政が先頭を走ってはいけない。民間の有志で自発的に生まれてくる、それを支える側に立ちたい。

支援することで、町内外に出て行けるものになってくれることが望ましい。



石田利美議員



問 和寒町のロゴマークで特産品の支援を 答 補助要綱を見直して支援する

問 和寒町のアライグマ・鹿等の鳥獣被害は 答 猟友会の方々と連携し、被害減少に努めていく

ロゴマークで特産品の支援を

和寒町は、カボチャ作付面積日本一で越冬キャベツの産地でもあり、恵み豊かな町である。

昨年のパンプキンフエスティバルでロゴマークが発表されたが、町内外にロゴマークが浸透していないように思う。

奥山町長のスローガンである、和寒町ブランド農業の創設の一つとして、カボチャ、キャベツ等のパッケージにロゴマークを入れて和寒町のPRと農家の支援をしては。

奥山町長

ロゴマークは、わたさおポナッツやポタるとの特産品のパッケージ、和寒町の名刺、町政要覧、100周年記念のリーフレットなどで使用されている。

が、旭川市近郊や上川北部をエリアとするフリーペーパー「ライナー」の12月号でも記事として取り上げられるなど、徐々に浸透してきている。

和寒町の特産品のブランド化を図っていくために、今後ともロゴマークの積極的な使用について関係機関に働きかけ、ロゴマークを入れた新たなパッケージを農業者や商工業者等が作る際には、和寒町地場産業開発研究に対する補助により、取り組みやすいように補助要綱を見直していく。



▲PRロゴマーク

アライグマ被害の対策を

平成19年に鳥獣被害防止特別措置法ができてから、和寒町では有害鳥獣対策として電牧の設置の助成、猟友会の運営等を助成し、猟友会隊員の増員、鹿等の駆除の効果が表れている。

しかし、近年アライグマの被害が増えているがこれからの対策は。

奥山町長

鳥獣被害が年々増加する傾向にあることから、中山間地域等直接支払交付金事業により電牧設置に一部助成を実施している。

平成20年からは、鹿駆除対象とした有害鳥獣駆除活動支援補助を制度化し、有害鳥獣の駆除対策に取り組んでいる。

特に平成27年は特定

外来種に指定されているアライグマによる農作物の被害が頻発したため、箱罠を仕掛けることができる、農猟、狩猟免許の取得職員を増員したほか、地域の方々が自ら箱罠を見回ることができるよう、従事者講習会を開催してきた。

アライグマの駆除が、特定外来生物防除実施計画により、箱罠でしかできないことから、今後も、従事者講習会を開催するなど地域の猟友会の連携を図り、農作物の被害減少に努めていく。



▲アライグマ捕獲の様子

より良いまちづくりを ～決算審査特別委員会報告～

平成26年度の一般会計、5特別会計、病院事業会計の決算は、平成27年11月24日～25日の2日間にわたり、議長と議会選出監査委員を除く8名で構成された決算審査特別委員会（佐々木広行委員長・石田利美副委員長）で慎重に審議さ

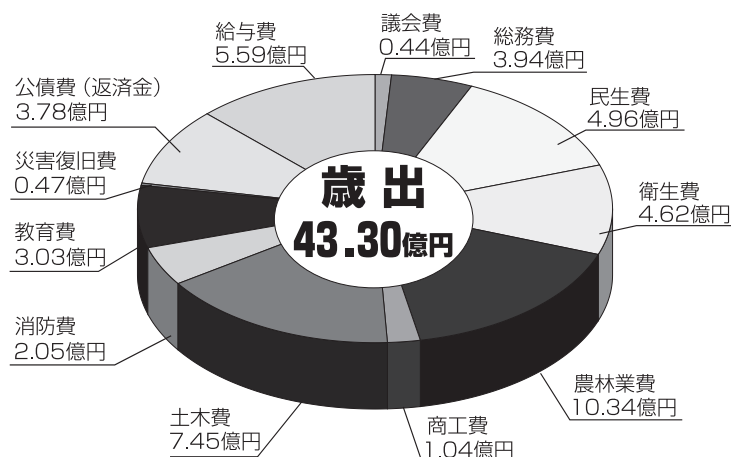
れました。

町民の生活に直接関係する事業の決算だけに、委員各位から活発な質疑があり、会計ごとに討論を行い、採決の結果、各会計とも賛成多数で認定すべきものと決定しました。

平成26年度 各会計決算状況 ※1万円未満切り捨て表記

会 計 別		予算額	収入額	支出額	差引残額
一 般 会 計		45億6647万円	45億1791万円	43億2984万円	1億8807万円
国民健康保険特別会計		6億4852万円	6億4732万円	6億741万円	3990万円
簡易水道事業特別会計		8858万円	8782万円	8522万円	259万円
公共下水道事業特別会計		1億8131万円	1億8148万円	1億7741万円	406万円
後期高齢者医療特別会計		6109万円	6138万円	6069万円	69万円
介護保険特別会計	保険事業勘定	5億7057万円	5億4776万円	5億1060万円	3716万円
	介護サービス事業勘定	4719万円	4919万円	4675万円	243万円
合 計		61億6376万円	60億9289万円	58億1796万円	2億7493万円
町立和寒病院事業会計		収益の収入	4億8117万円	収益の支出	4億8661万円
		資本的収入	2523万円	資本的支出	5006万円

一般会計



町民1人当たり
約118万6300円

議 会 費	1万2000円	1.01%
総 務 費	6万5546円	5.52%
民 生 費	15万7954円	13.31%
衛 生 費	12万7492円	10.75%
農 林 業 費	19万2583円	16.23%
商 工 費	2万8802円	2.43%
土 木 費	19万3307円	16.30%
消 防 費	5万5844円	4.71%
教 育 費	8万8265円	7.44%
災害復旧費	3180円	0.27%
公 債 費	11万1457円	9.40%
給 与 費	14万9829円	12.63%

決算審査

Q&A

デマンドバス

Q 乗車方法が分からない町民に対する周知方法は。

また、土日運行の考えは。

A 周知は広報誌やお知らせ版で行っている。

土日の運行要望は承知しており、課題として研究することだと思っている。

エココテージ

Q 利用者は。

また、多くの人に利用してもらうため、最大1ヶ月利用の枠を見直しては。

A 平成26年度は128件で延880人、実数472名のうち、町内者は67名で14%、移住

体験は5件で7%だった。

ネット予約の空き状況を見て断念されるのではないかと思う。

夏場に利用が集中しているの、冬場の利用促進を考えていきたい。



▲エココテージ

重度障がい者 ハイヤー補助

Q 補助対象者が全て補助を利用しない要因は。

A 障がいの状態による場合もあるが、交付率が63%、利用率が44%であり、なぜ利用率が低いのか確認していないため、今後調査をしたい。

保養センター

Q 今後をどのように考えているか。

A 平成23・27年度にそれぞれ改修工事を行っていることから、8・9年は使用できると考えている。

建替えの意見が多いことを検討しながら、今ある施設も並行して利用していきたい。

農業振興

Q 町外から新規就農者が来ても実際に就農するのは難しい。

相談初期の段階でしっかりと説明をしているのか。

A 平成27年度では、酪農及び施設園芸で1件ずつ新規参入があり、真剣に農家に取り組んでいた方には誠意を持って説明している。

Q 農村生活体験事業の募集方法を工夫し、実習生の確保を。

A 来年度の募集では、新たな広告サイトへ募集の掲載を検討している。

また、生活費の支給額見直しも検討している。

Q 食用かぼちゃ種子生産振興事業補助は10aあたり千円と認識しているが、7割試算ではなく満額補助にしては。

A 7割の考え方は3年連続で行っているので継続したい。

産業振興

Q 緊急雇用創出推進事業について、補助金は運営費に充当しているのか。

A 会社の運営費ではなく、失業者を対象としている。

平成26年度は7名を雇用し、人件費や研修に対する補助を行った。

ロゴマーク デザイン

Q 有馬デザインに委託した経過は。

A 一目で和寒とわかるものを作りたいというところから始まった。

商工会の事業でアドバイザーをいただいた方の一人でもあり、町のPRのためにごなたでも使ってもらえるように作成した。

夫婦岩遊歩道整備

Q 今までは私有地となると、怪我は自己責任だが、今後町有地となり、怪我があつた場合はどうなるのか。

A

保険を掛けており、町に瑕疵があれば保険適用となる。

注意喚起の看板で周知はできるが、今の登り口は非常に急なため、もつと緩やかに登れる道を模索する。

スポーツ振興

Q

体育施設の利用人数が伸びないようだが、合宿の受け入れに工夫をお願いしたい。

A

チーム件数に大きな変化はないが、1チームあたりの人数は減っている。

リピーターが多く、今後、新規参入をどう受け入れるかが課題

TOPIC 議会

上川管内町村議会
議員研修会に参加

10月27日に当麻町で開催された標記研修会に参加してきました。

はじめに「TPP交渉について」と題し、東京大学大学院農学国際専攻教授の鈴木宣弘氏の講演を受け、その後、「日本経済の課題と展望」と題し、経済ジャーナリストの須田慎一郎氏の講演を受けました。

上川北部市町村議会
議長会定例会

1月25日に役場において、和寒以北の9市町村の議長で構成される上川北部市町村議会議長会（1月定例会）が開催され、議長・副議長が出席しました。

定例会としての協議事項や情報交換の後、保健福祉課職員から本町の保健事業の取り組み状況についての説明がありました。



▲鈴木宣弘氏による講演



▲定例会の様子

11月24日開催
第5回町議会
臨時会

補正予算

「一般会計補正予算」
（全員賛成可決）

経営構造対策費では、特産品ガイドブック作成に係る委託料と印刷製本費などを補正。

学校管理費では、旧三和小学校の煙突壁材アスベスト等追加調査業務委託料を補正。

一般会計補正額

（※ 1万円未満切捨て表記）

会計別	補正前の額	補正額	補正後の額
一般会計	43億9782万円	378万円	44億160万

次回の定例会は

3月です。議会を傍聴してみませんか？

議会の傍聴は、傍聴者名簿にお名前と住所を記入していただくだけで、どなたでも傍聴できます。

皆様の暮らしや、より良い町づくりと一緒に考えてみませんか？皆様のお越しをお待ちしております。

詳しくは議会事務局へ TEL32-2436

行政報告

なごやかサロン

昨年5回にわたり開催しました住民参加型意見交換会において、「高齢者等の集いの場」の必要性がまとめられ、地域住民主体による組織やボランティアがなごやかサロンモデル事業補助を活用し、本年4月に「恵みヶ丘生きがいサロン」、5月には市街地に「おやすみ処」がオープンしたところであります。

芳生苑改修工事

特別養護老人ホーム芳生苑で工事を進めておりました東棟居室内床張替え、壁・天井の塗装等につきましては、10月30日

に工事が完了したところであります。

防災対策

町と仲町自治会合同により、大雨被害による洪水を想定した災害避難訓練を10月10日に実施したところであります。

その内容は、防災無線による情報提供によって、仲町自治会の方々95名が参加され、援助する側とされる側の役割をそれぞれ持ちながら、避難所である町民センターまで避難していただいた後、専門家による講演会への参加や非常食の試食を実施したところであります。

また、職員による災害

対策本部の設置や避難者の受け入れ、避難所内のブース設置、非常食の準備など災害時を想定した訓練も並行して実施したところであります。



▲災害避難訓練（講演会）

個人番号カード

10月中旬から町民の皆様には郵送されておりますが、不在等で直接届けられない場合があります。このため、再配達などによる所定の時間を過ぎて役場に持ち込まれた件数は、11月末現在で106件となっておりましたが、現在のところ約半数

の方々にお渡ししており、今後も、全ての町民にお渡しできるよう取り組んでまいります。

国勢調査

このたび実施された国勢調査について、最終確定ではありませんが、10月1日現在、人口で3600人、世帯数で1523世帯となり、5年前の調査と比較して人口で231人、世帯数で78世帯減少している状況にあります。

町立病院

今年度更新予定の超音波画像診断装置、いわゆるエコーについては、11月26日から稼動しており、より精度の高い画像解析による診療内容の向上が期待できることから、今後、検診などの予防医療を含め効果的な活用と収益の確保に努めてまいります。

町民ロードレース及びスポーツチャレンジデー

10月3日に開催しました第44回町民ロードレース大会及び第20回スポーツチャレンジデーは、土曜日の開催ではありませんでしたが、和寒町出身のオリピック選手菊地二久さんをお招きして、バイアスロン競技のライフル射撃体験もチャレンジ種目に組入れ、参加した多くの親子がそれぞれの種目を楽しみながら挑戦したところであります。



▲町民ロードレース

町民インタビュー 聞かせて



【松本秀樹クラブマネージャー】

「わっさおフレンドパーク」クラブマネージャー・ジュニアスポーツ指導員（日本体育協会認定資格）の松本秀樹さんにお話を聞かせていただきました。

❖ 和寒にUターンするきっかけは？

高校まで和寒で過ごし、大学を出てから飲食店の経営をしていました。

母が亡くなったのをきっかけに和寒町に何か恩返しができればと思い帰りました。

❖ 「フレンドパーク」の関わりは？

平成22年に日本体育協会が提唱した「総合型地域スポーツクラブ」の創設支援を受けて「いつでも・どこでも・だれでも」が気軽に取り組める機会を提供するスポーツクラブとして、平成23年2月に和寒町に「わっさおフレンドパーク」と称して誕生しました。

当時、私は体育協会の事務局長を拝命しておりましたことから、創設事業説明会や各種軽スポーツリーダー等の養成講習会に参加させていただきました。

❖ 組織体制は？

わっさおフレンドパーククラブ運営委員13名をもって事業の企画運営を行っており、教育委員会に事務局をおいて活動しています。

❖ 運営資金は？

和寒町からの補助金・スポーツ振興くじ事業の助成金（補助）と登録会員からの会費で運営しています。

❖ 活動内容は？

体力づくりや軽スポーツを月2回（和小体育館にて）行っています。

現在は、主にスポーツ少年団加入前の低学年児童40名が登録され、体力測定・サーキットトレーニング・各種軽スポーツで心地よい汗を流しています。

これまでもノルディックウォーキングやふまねっと等の軽スポーツを実践しています。



▲ノルディックウォーキング参加者の皆さん

❖ 参加者の様子は？

色々な軽スポーツ体験でルールを学ぶことや、ゲームばかりではなく、フラダンスなども取り入れて楽しそうに活動しています。

❖ 今後の活動は？

現在は、体力づくりが中心となっていますが、今後は住民ニーズを汲み上げて、多くの町民が参加できるような体制を構築すると共に、文化的な活動も視野に入れて地域コミュニティの形成につなげることを願っています。

広報委員の一言

2016年の始まりは穏やかな天候の中のスタート。

その穏やかな裏には、最大級のエルニーニョ現象の影響のこのと。

異常気象をもたらすこの現象はいつ何が起きるかわからないのが不気味さを感じます。

さて、今年はリオオリンピックも開かれるなど、大きな行事がある中、夏には国政選挙が控えており、選挙権年齢が18歳に下がっての参院選。

これから担う若者世代がどう政治と向き合うか。

わかりやすいスポーツと違って政治はわかりづらいなど敬遠されがちですが、我々も世代間を通して話し合う場も必要ではないでしょうか。

（裕二）